

令和5年度 第6回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和5年12月19日（火）午後6時30分から午後8時
- 2 開催場所 伊東市役所 8階 大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員10人（欠席4人）
市長、中村副市長、岸副市長、教育長、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) プレゼンテーション準備
- (3) プレゼンテーション
- (4) グループ交流
- (5) 閉会

5 プレゼンテーション概要

- (1) 市長挨拶

【市長】

改めまして皆さんこんばんは。今年度、ここ数年実施できなかったワークショップにもご参加いただき、「住んでみたい、住んでいたいまちづくり」というテーマで、身近な、あるいは市全体の現状の整理、今後取り組みたい事業など、様々な内容を議論いただきました。

本日はその集大成としてプレゼンテーションを行っていただきます。本市の将来を担う皆様が、本市の将来像をどのように描いているのか、非常に興味深く楽しみにしております。

各グループから出されたご意見については、今後の市の事業実施、あるいは地域の皆様へのご提案といった形で参考にさせていただきたいと思っております。

皆様におかれましては、これまでの議論を通じてまとめられたご意見やご提案など、大いにお話していただきたいと思っております。それでは、よろしく願いいたします。

- (2) 説明

【課長】

順序といたしましては、先にAグループの説明が10分、その後市長等との質疑応答意見交換が8分で、その後Bグループも同様に行います。最後に市長からまとめて講評を申し上げます。

それでは早速プレゼンテーションに入りますので、発表される方は、前の方にお進みください。

- (3) Aグループ・プレゼンテーション

【A委員】

はい、それでは始めます。よろしく願いいたします。

私達グループは、伊東市が「住んでいたい、住んでみたいまち」となるために、伊東市のあるべき姿について考えていく中で、「利便性とにぎわいあふれた伊東」というテーマを設定しました。

観光産業や観光客にばかり目が行き、住む上での豊かさが足りないがしろにされている一面も否定しがたいことから、住む上での豊かさも実感できる伊東市を作り上げていくため、中心市街地、公共交通に焦点を当てることにしました。

「利便性とにぎわいあふれた伊東」を目指すために、どんなことに取り組んでいけばいいのかを検討する中で、大きく二つの分野について具体的に考えていきました。

一つ目は、みんなで支え、高める公共交通が大切だということで、交通を中心とした取り組みです。みんなで支え、高める交通が大切だと考えるのは、みんなで公共交通について知り、育て、使うことが利便性の向上につながると考えたからです。

二つ目は、オール伊東で作るにぎわいの創出が大切ということで、にぎわいづくりを中心とした取り組みです。オール伊東、市民、学校、企業、行政全てが積極的にまちづくりに参加することが、にぎわいの創出につながると考えたからです。

まずは交通について話します。B委員お願いします。

【B委員】

さて、こちらにあるように、みんなで支え高める公共交通をテーマとしていますが、我々チームでは鉄道バスの運行本数の増加を求める声が多くありました。しかし、欧米や中国に比して、我が国の公的支援関与は極めて小さく、もはや民間事業者だけで公共交通の活性化は困難です。

その一方、人口減少で人口争奪競争が激化する中、公共交通やコンパクトな都市構造に進む上で、利便性の高いまちづくりが今後の発展の鍵を握るため、公共交通を公共インフラと認識した上での公的政策の強化と市民参画が必要と考えます。

一つ目のモビリティマネジメント等は、自治体交通事業者が地域の住民や企業、学校などに様々なツールを通じて交通手段での行動変容を促して公共交通需要を確保する政策です。市の広報での情報提供や転入者への時刻表配布のような簡単なものから、公共交通でのエコ通勤を推進する企業の認証表彰制度、ノーマイカーウィークと組み合わせた既存イベントの開催、公共交通でイベントに訪れた人へのイベント割引やイベント時限定のお得なバス鉄道セット券の販売実験の展開も考えられると思います。

また伊東市や交通事業者だけでなく、公募市民や伊豆伊東高校の生徒も入る交通まちづくり推進のための枠組みを創設し、その枠組みが公共交通マップ作成やイベントの企画などを楽しみながら担うことで、公共交通への愛着とシビックプライドを育み、都市の持続性につながると考えます。

日本モビリティ・マネジメント会議という学術団体があり、年に一度シンポジウムを開いています。来年は福井市で開催されるので、伊東市もそちらに職員を派遣し、ノウハウを吸収されてはいかがでしょうか。

二つ目はインフラ整備を踏まえた社会実験です。交通の利便性強化は取り組むべきですが、伊東市は国のように国定信用貨幣の発行権はないので、国から財源を引き出しつつ、社会実験で確実にニーズを把握しながら、プラグマティックに検討することが良いと考えますが、今回はトランジットモール社会実験について取り上げます。

トランジットモールとは、中心市街地の一部から自家用車を排除し、再整備によって公共交通と歩行者専用の空間に大転換することでのぎわいを生むものです。

先日、駅前広場整備計画案を公表されましたが、例えば静岡県警察や商工会議所、NPOなどと協議し、イベント開催と組み合わせ、歩行者広場と、バス乗降場が予定される駅前広場の北側から伊東駅入口の信号までを自家用車通行不可とし、歩行者広場からいちょう通りのセブンイレブンがある地点までなどを片側1車線化する形で、3、4年にわたってトランジットモール実験を年1回行われてはいかがでしょうか。

トランジットモールを検討する都市はほとんどないので、トランジットモールは間違いなく街の魅力的なランドマークにもなり得ると思います。国交省もほこみち制度を創設しており、ぜひともご検討いただきたいです。

最後の三つ目は、市による直接的な財政支援の強化です。一つは市外に通勤通学で公共交通を使う人を対象に、定期券費用の一定割合を補助するものです。これは人口流出の抑制を図る狙いがあります。また、立地適正化計画で設定された居住誘導区域や鉄道幹線バス拠点付近への移住に対する補助金支給などによって公共交通の持続性を高める工夫も必要でしょう。

もう一つは、伊東市に住み、市内バス路線の運転手になった人への給付金の給付です。昔は比較的高給取りだったから運転手人材が集まっていたわけで、それがなければ、元々拘束時間も長く、休みも自由ではないために人材は集まりません。そこで例えば伊東市が免許取得費用を全額負担し、祝い金を15万円、2年間限定で月数千円から1万円を生活支援として給付する。もちろん給付条件や対象人数の検討は必要です。しかし、福祉的公的な性格が強いバス運転手人材がPR強化のみで集まると考えるならば、それはもはや、頭がお花畑だと言わざるを得ません。以上の政策で、運行本数の増加も最終的に可能と考えます。

来年は交通まちづくり元年とし、伊豆半島における交通まちづくりのファーストペンギンとなりましょう。ご清聴ありがとうございました。

【C委員】

にぎわいづくりの方について説明をさせていただきます。書いてあるとおり以下のテーマについて考えました。私が伝えたい点、2点だけ申し上げます。

1点目がシビックプライドというところです。類似する言葉では郷土愛、という言葉が採用されています。こちらの方は辞書で調べますと、地域への誇りと愛着を示す言葉になっています。会議に出る前、出る後で比較してみたのですが、私、元々伊東の住民ではなかったもので、この伊東に対するシビックプライドというものはほぼありませんでした。ただ会議の中で、いろいろなディスカッションや様々な良い場所を知ることによって、少しずつ

このシビックプライドというものを高めることができた、と実感しています。

それを踏まえて次のステップとして、我々シビックプライドが高い人たちが、伊東市民に共有する場が必要ではないか、という形でこちらにつながるのですが、持っている人たちが交流できる場所作り、というものが必要だと感じましたので、別添の資料を準備しました。コミュニティカフェというものを提案したいと思います。定義としては、街のたまり場だと考えていただければと思います。

子育て支援や高齢者の交流福祉、まちづくりに影響を与えることができると考えていますので、もう一度申し上げます。シビックプライドを持った人たちが、伊東市の良いところや、魅力ある場所を共有して、市民全員がシビックプライドを持った状態のまちづくりをしていきたいなと思っていますので、コミュニティカフェを提案していきたいと考えています。

では実際にどういったものができるかというものを、伊豆伊東高校に置き換えて考えてみました。

伊豆伊東高校ができること、1点目。高校生と高齢者、中学校、経営者との世代交流、探究活動の実践発表などです。文化祭やオープンスクールなど学校の特色を伝える場所はあるのですが、こういう形で探究活動、なかなか面白いことをやっているんですけども、時間の関係で伝えられないことがありますので、こういった活動実践を上げていきたいと思っています。

最後に実際のモデルを紹介して終わります。実践発表会などをこの会議場で行われたらいいと思います。費用の問題もあるのですが高校生であればできますので、こういう活動は提案していきたいと思います。最終的にはB委員からもありましたとおり、こういうまちづくりがトランジットモールとつながってくるといいかと思っています。以上です。ありがとうございました。

【課長】

それでは、市長から質問、意見交換の方をお願いしたいと思います。

【市長】

質問をしていくと時間がなくなってしまうので、感想だけ述べてまいりたいと思います。素晴らしいプレゼンテーションが行われたと思っております。伊東市も伊東駅を改修する、これから大きなテーマになりますので、トランジットモールなどもしっかり考えていかなければならないと思います。私は富山市のLRTでまちづくりを図ったところに、過去に視察に行きましたので、いいなあという感想はありますが、ちょっと伊東にはあわず、今後またいろいろな形でやっていきたいという気持ちは持っておりましたので参考になりました。

また、例えば今、ライドシェアの制度がこれからできてくるものと思います。そういう点では今、伊東市の高齢化率が44%まで高まっており、また少子化が進んでおりますので、いろいろな形で支え合うことができなければいけないというふうに、お話を聞いて考えました。

それから財政支援です。私も公約として高校生の通学の定期券の補助をする、という約束をしてありまして、まだ実行できておりませんので、そこを今後また考えていく機会になりました。またシビックプライドを高めていく、というのは非常に大事なことでして、今日公表されました高校生アンケートを見ますと、伊東が住みやすい、というのは、半分ちょっとしか感じていません。あるいは将来、例えば進学後に戻ってきたいかという質問については、半分しか戻ってきたいと思わないという結果です。そういう意味ではもっと魅力を高めなければいけない、ということを考えておりますので、まさに郷土愛みたいなものを育てていきたいと、改めて感じた次第であります。

【中村副市長】

非常に深い議論がされた提案だなというふうに思います。大きく交通とにぎわい、という2点のご提案で、まさに皆が使う、ということがやはり一番大事なのかなというふうに思っておりまして、伊東市でも南部地区や分譲地でデマンド型の交通機関をやろうということで、実証実験もしているのですが、利用者が衝撃的に少ない現実があります。何とかしたいと思うのですが、実際、公共交通機関を使って外へ出るということはハードルが高いのかな、という感じもしております。

先ほどのご提案にあったように、それは交通インフラなんだ、という考え方で、市が思い切って全面的に財政も支援をしていく、という腹をくくった対応も将来的には必要なのかもしれない、ということもありますし、今、市長からもありましたが、ライドシェアのように住民が住民を支えていく、お互いが支え合っていくという仕組みも、これからは、どうしても必要になってくるのかなというふうに思っております。

伊東市の交通で言いますと、公共交通の取り組みをまとめた計画を定期的につけているのですが、来年が次期計画を策定する年度になっております。参考資料の方でも各地の成功事例が紹介されておりますので、会議の中で良い事例を学び合い、少しでも公共交通が良くなるように取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

【岸副市長】

春先からずっとお仕事帰り、学校帰りに参加していただき大変な時間だったと思うのですが、本当に素晴らしい提案をいただいてありがとうございました。特にB委員のご提案が非常に現実的で、未来を同じように共有できるわかりやすい説明だったと思います。その中で気になった、感動したのが、モビリティマネジメントのときに楽しく参加する仕組みを作るんだ、という部分です。私も、とにかく何事も楽しくやらないと前には進まないし、継続しない、というふうに思いましたので、いろいろなご提案の中で、一番ベースは楽しく参加できる仕組みを作ることだ、というところに大変共感できました。

それから、にぎわいのところで、近い未来で伊豆伊東高校にできること、ということでご提案いただいたのが、大きな目標もステップバイステップで、一つずつという中で、グループの提案がとてもビジョンとして見え、イメージとして浮かびやすい印象を受けました。これらの一つでも実現できれば、また次のステップに行けるというような、本当に未来を見る

勇気が出るような提案をいただいたと思います。ありがとうございました。

【教育長】

まず発表の方、ありがとうございました。その中で郷土愛、ということが非常に胸に響きました。郷土愛について先ほど市長が申し上げたとおり、高校生のアンケートで、どちらかというを持っている、あるという方が約8割、79.6%の高校生がそういう郷土愛を持っているわけです。そういう中で、今日、郷土愛についていろいろなことを考えたわけですが、皆がやはりそういう郷土愛を持っている中で、伊東を、これから未来に向けて作っていくんだ。そこはやはり「この地域が好きだ」ということが、一番ベースになるかなということのをいろいろ考えさせていただきました。

それからもう一つ、探究活動ということで、ご説明がありましたが、静岡県教育委員会の方で非常に力を入れている内容で、これは、ワクワク感がないと探求できないんじゃないかなと思っておりますので、自分の本当にワクワク感のあることを、とことん追求していくような、そういう学生に育ててほしいなと強く思いました。

本当にいろいろなことと言葉を、勉強させていただきまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

(4) Bグループ・プレゼンテーション

【D委員】

Bグループでございます。どうぞよろしく願いいたします。

まずはBグループのテーマですが「未来につなげるまちづくり」というテーマにさせていただきました。少子高齢化や人口減少という構造的な問題と、やはり若者が戻ってこない、というところも問題として抱えております。当社も新卒採用をするのですが、伊東市の応募がほぼないというところがございます。伊東市の企業なのですが、そういうところで企業として少し反省しなくては、というところもございます。その中でやはり、伊東市が持続可能な市であり続けるために、キーワードとしては若者、若い世代、というところがキーワードになってくるのかなと思っております。

若い世代を市民全体、市全体で育てる。要は伊東市を活性化、活気をもたらしてくれるのは若い世代というところで考えております。その中でテーマとしては交流と情報発信、という二つのテーマを挙げさせていただきました。

重複しますが、伊東市全体として将来を担う人材を育てる、そのためには私達世代、上の世代と若い世代、この3世代が交流し一致団結して、いろいろなものを共有していくというところが大切かなと、やはりそういうことを情報発信することによって、伊東市、面白くやっているなとか、そういうふうに思っただくというところで、この若者というキーワードをテーマとして、交流、情報発信という二つのサブタイトルを掲げさせていただきました。

【E委員】

では私からは交流について説明していきたいと思っております。

まず一つ目の交流については、世代を超えた交流を持つことによりまちづくりやまちの

活性化につなげていくため、マルシェとお祭りをつなげて、世代を超えた交流であったり、今までのイベントをさらに活性化することによって、生まれたまちに愛着を持つ、ということをご提案します。

テーマを実現するためにできること、それぞれの立場でやってほしいことは、まず地域の方におかれましては、子どもたちに教えたい、伝えたい技能を持った人たちに集まっていたら、僕たち高校生のような若い世代に体験してもらうこと、これは松原八幡神社さんで行っているしめ縄作りだったり、伊豆・いとう地魚王国で行っている魚のさばき方教室なども当てはまります。

また現在はSNSの存在がとても大きい時代です。なので、今あるイベントなどを、より効果的に発信したりであったり、もっと良いSNSの使い方を知りたい、という方にレクチャーをしていただき、本市の魅力が多くの方に伝わるということをやっていただきたいというふうに思っています。

行政の方におかれましては、世代の交流の場の提供として、例えば高校生が小学生や中学生に部活を教えたりだとか、また、先ほど言ったマルシェとお祭りをつなげてのコラボの場、またはゲーム、スポーツ、将棋など、社会人と学生が戦う、そのような場のセッティングをご提案します。

またこれらのイベントについては、商品や賞金があればさらに盛り上がるができると思いますので、地域や地元企業にスポンサーとなってもらえるように、私達高校生が中心となってプレゼン活動ができればというふうに思っています。

次に企業の方々におかれましては、先ほど提案した社会人と学生が戦う、競い合う、というイベントのスポンサーとして活動を応援していただきたいということが一つ。二つ目に、多くの特産物がある本市には多種多様な企業がありますので、それを生かすことを考え、職業体験をできる機会を地域に向けて開いていただき、体験をしてもらうことで、より自分の進路を考えたりだとか、自分の進路に向かってより道を開くことができるという意味を込めて、本市における産業の魅力への理解が深まり、また産業への愛着が湧き、この本市の発展に大きくつながるのではないかと、私達Bグループは考えました。

そして自分たちにおいてはスポンサー獲得活動とともに、マルシェにおいてだったりとかその他の地域の方々において、学生、例えば美術部員によるポストカード販売によって、自分たちの活動発信することも大事だと考えています。また、これらをやったことによって、情報発信にもつながっていくのですが、国と国を超えた交流なんていうこともできるんじゃないか、というふうに考えております。

では次に、この情報発信についてお話しさせていただきます。

【F委員】

私は、情報発信についてお伝えさせていただきます。
まず、E委員から話しましたが、基本的に私達もお金になるべくかからない、すぐできる、実現するにはどうしたらよいのだろうかという視点で考えました。

情報発信、SNS等で発信する伝えるというためには、見る・知る・体験が必要なので、地域でそういったイベントをすることにより、愛着が生まれるので、愛着があるのでまた帰ってきたいなど、やはり自分自身が、市民一人一人が広告塔になれるというところで、情報発信は大事、というところでやっていきたいと思っております。

素晴らしいイベントが伊東市はいくつもあるので、例えば、先ほど言いました学生VS社会人など、企業を知ってもらう機会もあると思うので、トライ乗り競争や、尻つき祭り、オレンジビーチマラソンでもいいですし、芸術祭で作品を、例えば学生と社会人が出展してみるとか、その対戦を何番勝負とか、そういったことをやりながら情報発信で盛り上げ、こういう取り組みをすることで、皆さん、ご家族だったり、市民が自然とイベントに足が向く、というところで、人が集まる場になりイベントとしても大きくなります。ただいま何勝何敗だけど、次の勝負はここでやります、みたいなどころをはじめ、いろいろなものを発信できるのかなと思っております。

市民をどう巻き込んでいくか、点を線にするということ、できれば有名YouTuberさんと一緒にするであったり、できれば、非常に発信しやすくなるのではと思います。それと、口コミも大事なのですが、インバウンドの方もいらっしゃいますが、ちょっと違う東アジア圏、イスラム圏をターゲットにした宣伝などもできれば、その中で発信することでいろいろな機会が生まれるのではと思います。

情報発信を常にこうしていく、学生中心の目線でこうやっていくことも大事なのかなと思います。以上です。

【G委員】

私の方からはBグループの発表の総括といったところをお話をするのですが、今まさにお話をさせていただいた通り、「未来につなげるまちづくり」のために、若者といろいろな体験や交流できる場を作っていけたら、より伊東市に愛着を持ってくれるのではないかと。学校で学ぶこともとても大切なのですが、それ以外で学ぶこともたくさんあると思います。学校の中だと、苦手だな、得意じゃないな、という子どもであっても、もしかすると学校以外で、自分が輝く場所、興味・関心を持てるもの、ことに触れることができるのではないかと。そういった話し合いもグループの中でありましたので、やはり、ここが大切だ、ということで、この「未来につなげるまちづくり」、生まれたまちに愛着を持てるといいね、というところを深掘りしていきました。

実際に学生さんたちが活躍をすることで、学校で学ぶこと以外の刺激を受けるのは、学生さんだけではなく、実は我々社会人もそうなのかな、ということも、グループの会話の中で生まれてきました。

この未来ビジョン会議で、このようなテーマについて話し合いをした結果、Aグループ、Bグループの発表、いろいろな意見が出てきて新しい刺激を受けたのは、学生さんだけではなく、我々社会人もそうだったように、またこういった刺激を受ける場というものが、我々が提案するこの交流であったり、情報発信のマルシェイベントや市内のイベントの中で、新

しい形、学生との競争対決をする、新しい形をしていく中で、いろいろな刺激を受ける場を、またそういった刺激を受けた人たちが交流する場、そういったものができてくるとより相乗効果が出て、よい形で広まっていくのではないかと思いました。以上がBグループの発表です。ありがとうございました。

【課長】

それでは市長から感想や意見交換をお願いします。

【市長】

感想にとどめますが、キーワードは若い世代、かなと思いました。今ある実際の地域社会というものをよく見つめていただいているなということと、それをどうやってつなげていくか、ということを感じました。

また、時代の最先端のSNSを中心とした情報発信、これを地域として使いこなしていくこと。行政もDX化を進めておりますが、やはりすごく的を得ているな、ということを感じました。私は短めにして後ほど申し上げます。発表ありがとうございます。

【中村副市長】

大変お疲れ様でした。こちらも非常に深い議論がされた結果だなというふうに思い、本当に感心をいたしました。まず交流の方ですが、現実的には地域やタウンミーティングでは町内会に入る人が少なくなってしまう、何とかならないか、そんな話をよく聞くのですけれど、決してそういう人たちも人との交流を拒んでいる訳では無くて、おっしゃるようにSNSなどでいろいろな人と触れ合いたい、という、リアルでは接点を持っていないような方もいると思いますので、いろいろな場を提供していくということは、行政として非常に大事だなと改めて思いましたので、これからも人と人が交流する機会というものは、絶えず作っていきたくて。人が触れ合えば、何となくそこで化学反応が起きて、また別の方向にいろいろな可能性が広がったりということもありますので、ぜひ市としてはそういった機会を、これからも作っていきたくてというふうに思っております。

SNSの例えば情報発信ということで、枕投げ大会の情報発信はゲームキャラクターを使ってやっております、それなりに広がっているのかなあ、というふうには思っているのですが、そういった、これまでなかった視点で情報を発信していくということも非常に大事だと思っておりますので、皆さんのご意見も伺いながら新しい分野へのチャレンジをしていきたくて思っております。ありがとうございました。

【岸副市長】

皆さんありがとうございました。Bグループ全員の方から、若い人たちを大切に育てていこう、という気持ちがバンバン伝わってきましたし、それを受けて未来を担っていく世代の方が堂々と発表されていたことが印象的なグループだったと思います。

それと、マルシェとお祭りをつなげる、今と少し昔をつなげるなど、まさしくテーマに沿って、実現性のある、少し難しいかもしれないけれど、皆と力を合わせれば手が届きそう、という提案をたくさんいただきましたので本当はもっと聞きたい感じがしております。お

仕事帰り学校帰りの貴重な時間を使っただき、ここまで練り上げていただき本当にありがとうございました。

【教育長】

発表の方ありがとうございました。交流と情報発信ということで、本当に現実味があり、これをやってみたいということは、たくさん今自分の中で浮かんでいます。例えば交流の中で高校生が小学生にいろいろ教えたりとか、また国と国との交流なども、少し話が出たりして、どんどんできるんだなということを強く感じました。

そういう中でできることは、やはり一歩でも二歩でも進めていきたいなと、十分感じましたので、大変勉強させていただきました。ありがとうございます。

情報発信の方も、本当に重要だなということを強く感じさせていただき、こういう皆さんの考えていることが、次の世代、幼稚園や保育園の子どもたちが、大きくなったときに、皆さんのような考えを持って社会をつくり上げていく、そういうものを引き継いでいく子どもたちは幸せだな、ということを思いましたので、一緒に、これから現実的なことを進めていけたら、ということを強く思いました。ありがとうございました。

【部長】

本日は本当に貴重なご意見ありがとうございました。特に、交流ということで、世代を超えた交流により地域の活性化が図れる、ということであると思えますけれども、まさしく市としても、いろいろなイベントをやっている中でそういった交流が図れることによって、地域の活性化が図れるということが考えられますので、そういった意味で、市としても皆が参加したくなるような、市民だけではなく観光客も参加したくなるような面白いイベントをこれからも工夫しながら取り組んでいきたい、実施していきたいというふうに思います。

それからの情報発信につきましては、改めて市の魅力をしっかりとPRしていくことが大事、ということを感じました。特に皆さんから伊東市はPR不足だ、PRが下手だ、ということを幾度となく指摘をされております。とはいえ、市としても頑張っているところなどで情報発信に努めているのですが、これからももっと、市外、そして市内の皆様に向けてしっかりと情報発信をしていきたいなというふうに改めて感じました。ありがとうございました。

(5) 講評

【市長】

本当に皆さん、時間をかけ、いろいろ調べ上げて建設的な意見を出していただいたというふうに思いました。また、未来を語っていくことの楽しさを、皆さん参加していただき、感じていただけたものと思いますが、今度はこれを形にしていくという一番大事なところが残っておりますので、今日いただいたご意見を、市の政策としていかに早く作っていくか、ということは今考えています。ぜひ参考にさせていただきたいと思います。公共交通を中心としたお話は、社会問題ですので、どこよりも早く、あるいはわかりやすく市民の皆さんに伝えていったり、観光の方にも提供していくということは、今大事なことだなというふうに

思っております。

それから、交流、世代間というか、地域にあるものにもう一つ加えていくような形がおそらく取れると思います。そういうものも含めて、例えば、夏のイベント、そういう中で一歩でも、皆さんからご提案いただいたものに近づけていきたいというふうに思いました。

また情報発信は、今日からでもすぐできますので、ご提案の中にもありましたとおり、お金もかからないし、今すぐできること、誰もが情報発信できる時代になったので、ポジティブに伊東市を表現していくということに努めていきたいと思います。とかくSNSは、炎上するようなものが注目もありますが、そうではなくて、皆で、先ほどもシビックプライドという、まさにそれが大事だなと思っておりますので、そういうものを高めていくような情報発信にぜひご協力いただきたい、こんなふうにも思いました。

未来ビジョン会議はまだ続くわけですが、皆さんからいただいた意見を、実際に行動に移していきたいです。そのためには、ここにいる幹部もそうですが、市役所の職員には、おそらく同世代の方・高卒1年目の方もいますので、伊豆伊東高校の先輩もいらっしゃると思いますが、一生懸命頑張っておりますので、間違いなく皆さんと同じ気持ちで伊東市のために頑張っておりますので、そこもご理解いただいて、今後お付き合いを続けていただきたいというふうに思っております。また次の会議などでいろいろとお話を聞かせていただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

(6) 意見交換

【課長】

委員の皆様からも、それぞれの提案に対して感想や、ご意見等ありましたら、少しお伺いできればと思います。いかがでしょうか。

【B委員】

感想ですが、すごく面白いなど。マルシェとお祭りという組み合わせや、世代を超えた交流、若い人と年齢が上の人たちの世代というのは結構交流がない上に、対立をしがちというか、最近の若いやつが、と上の人は言いますし、若い人が最近の年寄りとは、という対立傾向にありますけれど、実はこんないい人だったのか、こんな面白い人だったんだ、こういう考え方もあるんだとか、そういう発想にいきますので、その世代を超えた交流と、文化を超えたマルシェと既存の祭りの組み合わせというのはすごく面白いと思いました。

例えばマルシェとお祭りをさらにトランジットモールと組み合わせたら、この三つを組み合わせたらさらに面白いなど。道交法の規定でハードルが高いところがあるのですが、そこは伊東市に頑張ってください、マルシェ・祭・トランジットモールでできたら面白いなどと思った次第です。以上です。ありがとうございます。

【G委員】

交通系に着目した具体的なご提案であったり、コミュニティカフェの具体的なご提案であったり、同じ未来ビジョン会議の中でも違った視点で、かつ具体的なお話がそれぞれのグループで出てきてとても面白いな、ということが正直な感想でした。

僕らとしても、やはりこういうところに注目した、というこだわりがあったように、発表の中からこだわりの部分であったり実現していくための具体的なところであったりということが非常に勉強になりましたし、グループによってこれだけ個性が出るんだな、ということがすごく刺激になりました。ありがとうございます。

以上